

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人キラリ財団	
施 設 名	富士見市民文化会館キラリふじみ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	17,808	(千円)
	公 演 事 業	14,826 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,982 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	モガ溪谷～記憶はだいたい 蜃気楼（穴あき谷のおまつり編）～	令和2年7月10日（金） ～12日（日）	企画：白神ももこ、田上豊 出演：笠井瑞文、奥山ばらば、アグネス吉井 （白井愛咲、KEKE）、清野美土ほか	目標値	420
		展示・会議室から Youtubeにてライブ配信		実績値	ライブ配信 視聴回数 10日/682 11日 /1,423 12日 /1,557*
2	キラリ☆風流寄席	令和2年8月29日（土）	出演：柳亭小痴楽、春風亭昇々、 入船亭小辰 雷門音助	目標値	230
		マルチホール		実績値	102*
3	サーカス・バザール	令和2年8月22日 （土）、23日（日）	出演：ジンタラムータ（無国籍チンドンバンド）、 ALK（空中芸）、サクノキ（クラウン）、 talattalatta（クラウン）ほか	目標値	来場者数 5,000、 公演来場者数 800
		全館及びカスケード水上 ステージ		実績値	来場者数 1,155、 公演来場者数 395*
4	橋爪功・夜の朗読	令和3年1月23日（土）	演目：宮部みゆき『神無月』、鷺沢萌『約束』 出演：橋爪功	目標値	443
		メインホール		実績値	226*
5	キラリふじみ・レパトリー 田上豊新作	令和3年3月（中止）*	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	300
		マルチホール		実績値	—*
6	キラリふじみ×桜美林 大学 群読音楽劇『銀 河鉄道の夜』	令和2年9月12日 （土）、13日（日）	出演：オーディションで選ばれた13名 田上豊 （キラリふじみ芸術監督） 神田初音 ファレル 狩野和世（うた）	目標値	240
		マルチホール		実績値	205*

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
7	アカキライク『眠るのがもったいないくらいに楽しいことをたくさん持って、夏の海がキラキラ輝くように、緑の庭に光あふれるように、永遠に続く気が狂いそうな晴天のように』	令和2年12月26日 (土)、27日(日)	出演：タイチ、チャル、ハル、ペー、ヨウジ、よっちゃん(以上、京都ダルク) 倉田翠、諸江翔大朗	目標値	240
		マルチホール		実績値	290
8	キラリふじみ・コンサートシリーズ2021	令和3年1月16日(土)	出演：毛利文香、東亮汰、田原綾子、笹沼樹、大崎結真、原嶋唯	目標値	400
		メインホール		実績値	210*
9	二兎社『ザ・空気ver.3』	令和3年2月11日(祝)	作・演出：永井愛、出演：佐藤B作、和田正人、韓英恵、金子大地、神野三鈴	目標値	460
		メインホール		実績値	347*
10	キラリふじみ狂言公演万作の会『入間川』『魚説法』『仁王』	令和2年10月6日(火)	演目：『入間川』『魚説法』『仁王』 出演：野村萬斎、石田幸雄ほか	目標値	510
		メインホール		実績値	385*
11	キラリ☆かげき団 第14回公演『にぎやかな夢～風～中、ひなげしたちの歌』	令和2年10月10日 (土)、11日(日)	構成・演出：伊藤多恵、音楽監督：萩京子 出演：キラリ☆かげき団、湯田亜希(ピアノ)	目標値	570
		マルチホール		実績値	269*

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	こどもステーション plus	令和2年5月～ 令和3年3月	進行：白神ももこ、田上豊（当館芸術監督）ほか	目標値	20×15回 =300
		スタジオ A ほか		実績値	74*
2	キラリふじみ・ダンスカフェ	令和2年8月～令和3 年3月	出演：白井梨恵、北川結、仁科幸、白神ももこ（以上、モモンガ・コンプレックス）、阿目虎南、齊藤コンほか	目標値	30×10回 +20×5 回=400
		アトリエ		実績値	111*
3	キラリふじみ・ワークショップ 夏休みこども劇場『えんげきをつくろう』	令和2年8月1日 (土)～8月16日 (日)	進行：NPO 法人演劇百貨店のメンバー（南波圭ほか）	目標値	参加者数 20／入場 者数 80
		展示・会議室		実績値	参加者 13 名*
4	小中学校へのアウトリーチワークショップ	令和2年9月～令和3 年3月（中止）*	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	延べ12 校 35ク ラス×35 =1,225
		市内小中学校		実績値	—*
5	第4回 ふじみ大地の収穫祭	令和2年11月23日 (祝)	芸能の映像の上映とお話し：駒木敦子氏（難波田城資料館学芸員）座談会出演：市内の獅子舞及びお囃子の団体	目標値	1,200
		全館		実績値	772*
6	キラリふじみ・ワークショップ 『ツナがる演劇～中高生の最初の一歩～』	令和3年3月 (中止)*	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	参加者数 10／入場 者数 20
		展示・会議室		実績値	—*

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

富士見市文化芸術振興基本計画（平成 26 年策定）の基本目標である、「育む」「活かす」「支える」「繋ぐ」をベースに、当館のミッションである「心のゆとりや生きる活力に満ちた豊かな市民生活」の実現にむけ、芸術監督と幅広いジャンルの提携アーティストを中心に、公演事業 10 事業、普及啓発事業 4 事業を、「①鑑賞」「②体験・交流」「③育成」「④支援」の 4 つの事業運営方針に沿って事業を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、公演 1 事業、普及啓発 2 事業を中止したが、客席定員の 50%の入場制限等のあらゆる感染症対策を講じながら、上演形態をライブ配信へと切り替えたり、ワークショップの一部にリモートを取り入れる等、来場者、参加者、アーティストにとっての最善の手法を探り、臨機応変に進めることができた。

個々の事業内容の立案については、以下を勘案し、持続的な展開に意識を置いて行っている。

◆首都圏の 30 km 圏内という立地や、農業を生業にこの地に根をおろし先祖代々暮らしている住民から、2000 年代に転居をしてきた若い世代の住民に至るまで、様々なバックグラウンドやライフスタイルを持つ市民が暮らす地域性。

本年度の事業には、薬物依存症リハビリ施設「京都ダルク」で日々を過ごすメンバーと、ダンサー、演出家の倉田翠が創作をした「akakilike（アカキライク）」のダンス公演や、桜美林大学と連携して創作上演した、市民参加による朗読劇「銀河鉄道の夜」等の新たな企画を盛り込み、異なる価値観や課題を持つ市民がその違いを越えて出会い、交流し、新しい価値観や視点を共有できる場や機会の提供をより一層充実させた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

当館では、開館以来、市内外の各種団体と連携・協働しながら、多様な市民ニーズに応えられる文化芸術活動を総合的に展開している。本年度は、以下のような地域の団体と連携をとりながら、相互の活動が発展可能な事業を進めていった。* 以下は行った取り組みの一例。

◆「キラリふじみ・コンサートシリーズ」では、日ごろ、コンサートへの来場にはハードルが高い、未就学児童を同伴する親子の観客や、市内の障がい者福祉施設の入所者にむけて、本番前日のリハーサルを無料招待した。

◆加えて、市内の障がい者福祉施設と連携し、「サーカス・バザール」への出店参加を通じて、文化芸術活動を通じたすべての市民に活力を与える活動に連携して取り組んでいる。

◆「サーカス・バザール」では、おやこ劇場（志木、朝霞、新座）のメンバーが、ワークショップ「大きなガラスに絵を描こう!!」の進行補助等運営全般を担い、当館がすすめる青少年や若い世代の劇場との出会いとなる場づくりに積極的に参画している。

◆「サーカス・バザール」や「大地の収穫祭」では、市内の農業者や商業者と協働しながら、コロナ禍での開催に際して、テイクアウトをはじめとする安心・安全な商品の提供方法や食中毒予防に配慮した販売品目の検討等、これまでより深い協議や議論を重ねたことで、協働の体制をより強固なものにできた。

◆市民が主体となり活動を続ける「キラリ☆かけき団公演」は、10 月に行った公演でも、コロナ禍においても、全 3 ステージを市民の観客で満員とする、市民と劇場を繋ぐ存在として大きな役割を果たしている。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

前述のとおり、本年度は、令和2年の年明けから続く「コロナ禍」において、様々な対応に追われ、公演事業1事業、普及啓発事業2事業の中止をはじめ、ガイドラインの策定やこれに基づく客席定員の50%の入場制限や参加人数等のあらゆる制限の中で、いかに事業が継続できるか、これに終始する形となった。

そうした状況下において、公演事業では、幅広い世代の市民にむけた優れた舞台芸術作品の鑑賞機会の提供、とりわけ、子どもや若い世代が楽しめる舞台芸術作品を創作上演と観客層の開拓と育成を目指した。

白神ももこ、田上豊両芸術監督の下、多様なジャンルのアーティストが加わり創作した『モガ溪谷』は、子どもや子育て世代にむけた、演劇やダンスの小作品を上演するフェスティバルとして準備をすすめたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、創作途中でライブ配信での上演に切り替えて実施した。

結果、3日間の開催で合計3,662回の視聴回数と多くの方にご覧いただくとともに、一連の取り組みが行政や地域住民から高い評価を受けた。

万作の会による狂言公演『入間川』『魚説法』『仁王』の上演では、当館からほど近い私立高校の生徒30名が鑑賞し、当館の主催公演を体験学習の機会として活用してくれた。令和3年度は、万作の会による「狂言公演」に加え「キラリ☆風流寄席」が鑑賞公演に加えられ、当校と当館との連携関係がさらに発展している。

普及啓発事業では、「小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ」を中心とした、本事業の多角的な展開と充実、子どもや若い世代の参加促進を目標に計画を立てた。

本年度は、その中心となる「小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ」を含む2事業を中止したため、他普及啓発事業相互の内容の充実を図った。「ダンスカフェ」では、初の試みとなる出演者公募を行い、応募18組のアーティストから2組のアーティストが出演し、また、公募者の中から数組のアーティストが、同普及啓発事業の「こどもステーションplus」の進行役をつとめ、コロナ禍において活動の機会が少なくなっているアーティストが活躍できる機会と市民とアーティストが出会う新しい機会を創出した。

「えんげきをつくろう」等の当館の普及啓発事業にこれまでに参加した小中学生や高校生が、「akakilike（アカキライク）」のダンス公演の「京都ダルク」の出演者メンバーと、ダンサー・演出家の倉田翠が交流企画を通じて出会い、本公演を鑑賞し感想を述べ合う等、公演事業との有機的な繋がりを持たせる等の充実を図った。

事業終了後には、芸術監督や提携アーティストを中心とした事業協力者とのディスカッションや、公演毎のアンケートや参加者との意見交換の内容を以降の事業企画に反映させた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<事業期間>

本年度は、公演事業と普及啓発事業の合計 17 事業を、5 月に開始した普及啓発事業「こどもステーション plus」から 3 月の公演事業「田上豊新作」、普及啓発事業「ツナがる演劇」まで、約 11 か月の期間で実施をする計画を立てた。事業を実施するための会場確保については、利用率が例年 70%を超える市民の貸館利用や、本助成対象事業以外の多数の市民参加事業や展示事業のスケジュールとの共存を図りながら綿密に計画したが、コロナ災禍の中、多大な困難に直面した。

<事業費>

収支に関して以下のとおりであった。

◇公演事業

収入 [計画]9,477,000 円→[実績]5,769,280 円 (収入率 60.9%)

支出 [計画]40,431,000 円→[実績]32,689,817 円 (執行率 80.9%)

◇普及啓発事業

収入 [計画]315,000 円→[実績]49,300 円 (収入率 15.7%)

支出 [計画]8,408,000 円→[実績]5,172,503 円 (執行率 61.5%)

上記に関して、令和 2 年の年明けから続くコロナ禍において、様々な対応に追われ、公演事業 1 事業、普及啓発事業 2 事業の中止をはじめ、ガイドラインの策定やこれに基づく客席定員の 50%の入場制限、貸館利用の相次ぐキャンセルによる、本助成事業での自己負担金の主たる財源となる施設利用料収入の大幅な減収等あらゆる面で影響があった。

公演事業では、通常の広報宣伝や関連企画の実施に加え、市民のボランティア機関の「事業運営サポート委員会」のメンバーや、(1) 妥当性の項目でも述べた、おやこ劇場のメンバーや協働事業に参加した市民に協力を得て販売促進を図ったことで入場制限がかかる厳しい状況にあっても約 60%の収入率に留めることができた。

支出の執行率 (80.9%) に関しては、公演事業 1 事業の中止に加え、財団全体の財政状況を見ながら、いかに事業が継続できるかを主眼に置き、本助成金の有効活用に最大限努めた結果である。

普及啓発事業の支出の執行率 (61.5%) は、普及啓発事業「小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ」、「ツナがる演劇」の中止が大きな要因となった。収入については、「ダンスカフェ」の実施回数を減らしたことや、コロナ対応のために「大地の収穫祭」の従来の実施内容を見直したことで参加費が減収したことが要因となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

◆地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮するための資源を最大限に活かした事業展開

当館は、開館当初から芸術監督制のもと、多様なジャンルのアーティストや創造団体や個人と提携し、幅広い舞台芸術のジャンルの創造・上演と普及啓発の活動を実施する体制を築いている。平成 31（令和元）年度から当館の芸術監督をつとめる、白神ももこ、田上豊は、平成 20 年度から館を拠点とするレジデントカンパニーの代表として活動に加わり、平成 23 年度からはアソシエイト・アーティストとして、当館での創造事業の中核的な役割を担ってきた実績がある。そのため、両芸術監督は、これまでの実績や経験に基づいて当館の施設面な特性や、

(1) 特殊性の欄でも述べた、様々なバックグラウンドやライフスタイルを持つ市民が暮らす地域性を踏まえた事業展開に取り組み、本年度では、施設中央のカスケード（水の広場）を望む開放的な空間や全面ガラス張りのアトリエ等の施設を活かした「ダンスカフェ」や、市民からのアイデアを積極的に創作に取り入れた「モガ渓谷」等の当館ならではの事業を実施した。

「ダンスカフェ」では、出演者公募により出演したアーティストが、舞台美術として考案した、古雑巾を使った作品創作において、市内の中学校 2 校から提供を受けた大量の古雑巾を使い、雑巾がアート作品へと変貌を遂げる様子を学校に紹介したり、自然や生き物にフォーカスした作品創作では、市内の自然環境や生態系の保護活動を行う市民を訪ね、そこで見聞きしたことを創作に活かすことができた。

また、「モガ渓谷」では、コロナ禍で出来る限りの対応として、ライブ配信での上演に方針を転換したのを機に、「モガ渓谷」という場所を WEB 上に作り、そこに「アイデア募集」として、そこに住む様々な生き物の「絵」を募集して、芸術監督と出演者がそれにコメントを加えて SNS で広く紹介した。また、募集した生き物から着想した「音楽」と「踊り」も追加で募集する同様に紹介するなど、直接触れ合わなくても、アーティストとの交流の場や共同で作品を創作する機会を提供し大きな成果をあげる等、作品づくりの過程で、アーティストと市民との貴重な出会いや交流が生まれることができた。

また、永井愛（演劇）、橋爪功（朗読）、西巻正史（クラシック音楽）、西田敬一（サーカスプロデュース）、こんにゃく座（オペラ）、演劇百貨店（演劇 WS）などの多様なジャンルの外部団体や個人と提携し、当館オリジナル企画の創造と上演を行った。

上記に代表するような当館の取り組みは、年間事業プログラム冊子、年 4 回発行する事業情報誌の市内全戸配布や約 4,000 通の DM 送付等で事業の方針や内容を周知している。また、インターネットによる広報媒体を活用し、ホームページでの基本情報や重要情報、フェイスブックでの事業の取り組みの様子の公開、ツイッターでの公演当日券情報や周辺道路の混雑状況の等のタイムリーな情報提供など、各媒体の役割を整理し、市民への的確な情報提供と発信を行っている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

当館では、演劇、音楽、伝統芸能等の多様なジャンルの舞台芸術の鑑賞機会の提供に加え、当館ならではのユニークなスタイルをもった市民協働・参加型の事業として、以下の二つのプログラムを継続的に毎年実施している。

◆サーカス・バザール

平成 24 年に開始し、毎年 7 月に行われる本イベントでは、サーカスのパフォーマンスと市民が出店するマーケットが全館を会場に繰り広げられ、毎年市民を中心とした多数の来場者が訪れる幅広い層の市民に人気の事業である。

富士見市では商工会が主体となり商業や農業分野における「地産地消」の活動を市内で推進しているが、当館が企画する本事業により、年代的にも地域的にも幅広い範囲の市民が、富士見市の地産地消の活動に関心を持つようになっている。

なお本年度は、4 月からの 5 か月間はホールの大規模改修工事が実施されたため、改修工事後のリニューアルオープンを記念するイベントとして 8 月に実施をした。

実施に際しては、市内の農業・商工業者等の市民の協力者と協働し、事業のコンセプトを共有しながら、テイクアウトによる商品提供方法等を慎重に協議して進めたことで、コロナ禍において、安心・安全に事業を実施するためのひとつのモデルとして、以後の主催事業や貸館事業にむけて活かすことができた。

このように、本事業では、商業や農業の違いや、居住地域の垣根を越えて、市民の間に新しい交流や連携関係が生まれている。さらにそうした市民は当館のサポーターとなって、様々な事業に対して協力や支援をしてくれるようになっている。

◆ふじみ 大地の収穫祭

「サーカス・バザール」での市民との出会いの経験を活かし、衰退しつつある地域の祭りの再生を通じてまちづくりを目指すイベント「ふじみ大地の収穫祭」を平成 29 年度に開始し、毎年 11 月に行い、今回で第 4 回の開催となった。

当館は、商業や農業やまちづくりの分野で活動する市民が参加する実行委員会を組織し、本事業を実施しており、通常であれば、当館のホール内やロビー空間などに、郷土芸能が演じられる舞台や農家がつくる料理が並ぶ出店コーナーなどを設けて、賑わいを創出しているが、今年度の開催は、先の「サーカス・バザール」と同様に、実行委員会のメンバーと、コロナ禍で何が出来るかを創意工夫し、一層の充実化を図った市内の伝統芸能の展示や、衰退が目立っていた獅子舞やお囃子などの地域の伝統芸能の活性化にむけたトークショーを中心に実施をした。

またサーカス・バザールと同様、本事業を通じて、様々な市民の間に新たな交流や連携が生まれている。さらにそうした市民は当館のサポーターとなって、様々な事業に対して協力や支援をしてくれるようになっている。

上記の 2 事業を同時に開催するようになってから 4 年目となり、現在では、富士見市内で行われる、夏、秋の各シーズンの主要なイベントとして、全市的に認知されるようになっている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

◆適切な人材配置と育成

当館は、マネージャー、芸術監督、館長そして舞台技術者に豊富な経験や実績を有する専門の人材を配置し、館の貸館業務全般を担う「管理担当」、主催事業の企画・運営を担う「事業担当」の2担当制で業務を行っている。本助成事業の実施を担う「事業担当」は4名で構成し、うち2名が10年以上当館に在籍する文化芸術事業の経験を有するプロパー職員で、また2名は、教育機関等で舞台芸術のマネジメント等を学んだ、令和3年4月採用の新入職員である。「管理担当」の新規採用者を含めると、令和3年度は3名の若手職員が加わった。現在は契約職員であるが、研修や実践を通じた組織活動の発展にむけた人材教育を行い、将来的には正規職員への登用を視野に入れている。

また、当館は開館以来、約50名の市民ボランティアを組織し、チケットもぎり、客席案内、託児サービス等の業務を通じて、当館の事業をサポートしていただいている。さらに、その市民ボランティアのメンバーから構成される、「事業運営サポート委員会」では、毎月一度の会議で、当館の主催事業の運営に対する市民からの評価や要望を把握し、事業内容や運営手法に取り入れている。

◆財源の安定化への取り組み

館の維持管理やそれに伴う人件費として、市からの指定管理料（毎年約1億9千万円）が支出されている。事業収入については、事業への充当が認められている施設利用料と公演チケット収入増にむけた取り組みを行っている。その中でも、一層充実した自主事業展開のための外部の助成金の獲得が重要となっている。現状では、当助成金（劇場・音楽堂等機能活性化推進事業）を中心に、事業ごとに、目的や内容によって、（一財）地域創造や国際交流基金への助成金申請や事業の共同主催の提案等を行い、資金の獲得につとめている。

* 以下は過去3年の実績

- ・平成30年度 文化庁 25,338,000円 (一財)地域創造 2,300,000円 国際交流基金 9,700,000円
- ・平成31(令和元)年度 文化庁 22,050,000円 文化庁国際交流支援 11,121,000円
(一財)地域創造 10,000,000円 国際交流基金 9,700,000円
- ・令和2年度 文化庁 17,177,138円

◆各種団体とのネットワークを基礎にした文化芸術活動の展開

当館は、2002年の開館からの18年間、市内外の各種団体との関係づくりを行っており、それらの団体と連携・協働をしながら、多様な市民ニーズに応えることのできる文化芸術活動を持続的に展開している。

* 以下は「(1)妥当性」の項目で述べた以外の連携の具体例

- ・東武東上線沿線文化施設との連携…東松山市民文化センター、川越南文化会館、和光市民文化センターなどの公立文化施設と定期的に情報交換のための会議を実施。平成26年度に、施設の課題や施設同士の事業連携の方法を考えるシンポジウムを共同で開催した。
- ・市内の文化施設…市内の中世の城跡を保存している難波田城公園（同資料館）の職員が、「大地の収穫祭」の事業開始当初から実行委員として参加し、市民の現状や多様なニーズを情報共有しながら、地域振興に連携して取り組んでいる。

◆行政と連携した施設の改修計画

令和2年4月から8月かけて実施したホールの大規模改修工事では、利用者側の視点に立った様々な提言や助言を行政側に提示することで、更なる機能向上に貢献した。現在は、令和7年度に予定されている第二期改修工事にむけて、具体的な提案を含め、行政との連携を密にし計画を進めている。